

# 異常気象に振り回され、全体として景況停滞

## 8月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

### 概況

7月に引き続き、猛暑が多くの業種に影響を与える。機械・金属は自動車関連が好調で、売上・収益ともに先行きに明るさがみられる。一方、その他の業種は猛暑に苦しめられる状況がうかがえる。また、原材料価格の高騰、人手不足も継続しており、景況は全体として停滞している。

製造業	食料品		パンは、猛暑と雷雨の影響で売上が落ち込む。菓子は、売上・収益ともに昨年並みで、大きな動きは見られない。製麺は、引き続き猛暑の影響で生麺・乾麺とも厳しさを変わらず。酒造は、本醸造酒の売上減少に歯止めがかからない。食肉は、高気温が継続したことで豚の育成が伸び悩み、出荷頭数が減少となる。
	繊維・同製品		桐生織物は、端境期に入ったため、婦人服地が低調、輸出向け、和装織物も低調な推移となる。伊勢崎織物は、伊勢崎銘仙の引き合いはあるものの、人材難が課題。ニットは、機械化が進んでいるところは先行きが明るい状況。繊維製品は、天候不順とアパレル業界の売上低迷を受けて、景況悪化。
	窯業・土石製品		コンクリートブロックは、ブロックの出荷が引き続き順調。生コンは、東毛地域の出荷の落ち込みが特に大きく、前年を上回ったのは吾妻地域のみとなる。コンクリート製品は、配送コスト・原材料価格上昇の煽りを受けて売上高が減少。碎石は、収益が悪化し、景況も依然厳しい状況。
	機械・金属		全体的に好調な売上が背景として、景況に明るさがみられる。SUBARU関連は、売上増加を新型フォレスターが牽引。電機関連は、中間決算に向けての駆け込み需要により、売上・収益ともに増加傾向。鍍金は、自動車関連は好調を維持しているものの、その他は若干の下降傾向。
	その他の製造業		木材は、依然荷動きは良好だが、仕入単価上昇と仕入量減少の影響で収益が悪化。印刷は、原材料販売元の統廃合に伴い仕入価格が上昇、仕入面に課題あり。紙加工品は、原材料価格の値上げが販売価格の低下や収益の悪化を招いている。ゴム製品は、人手不足の状況が続く。
非製造業	卸売業		高崎卸団地は、若手等の人材確保に苦慮している状況。太田卸団地も採用活動に苦戦。前橋卸団地は、人件費の増加と人手不足が引き続き課題。農産物卸は、猛暑の影響で品質低下が発生し、また、全国で発生した自然災害による今後の品不足を懸念。水産物卸も、猛暑の影響で鮮魚等の売上が大きく減少。
	小売業		中古車オークションは、出品台数は減少しているものの、成約台数が増加したことで収益好転。燃料小売は、猛暑による需要増により売上増加。生花小売は、お盆の需要期であったものの、猛暑の影響による品不足で仕入れに苦慮。商店街は、バーゲンを開催するも、猛暑の影響もあり売上が伸び悩み。
	サービス業		温泉旅館は、猛暑に加え台風が発生した影響で、特に8月上旬の入込客数が減少し、全体的に景況は悪化。不動産取引は、消費増税前の駆け込み需要が始まり、住宅用地に関する問い合わせが増えている状況。自動車整備・建築設計は、売上・収益ともに前年並みとなる。
	建設業		建設工事は、公共・民間工事ともに減少・停滞傾向にあり、売上減少。解体工事は、大手コンビニへの改修工事や耐震工事の引き合いがあり、景況は好転。電気工事は、緊急の空調設備の設置や入れ替え対応に苦慮。塗装工事は、台風の影響により稼働日数が減少し、売上・収益が減少・悪化。
	運輸業		猛暑の影響で飲料水関係の荷動きが引き続き好調だが、雨量不足もあり野菜関連の出荷が減少。西日本豪雨災害の影響が色濃く残り、貨物の代替輸送がトラック便に流れてきていることで、引き続き車輻不足の状況。小口配送は、お盆前の追い込み需要により動きがみられたものの、後半は動きが鈍化し、売上減少。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

### 県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 112.9(前月比+3.9%)「県統計課・7月」
- 住宅着工戸数 1,042戸(前年同月比▲13.5%)「県建築住宅課・7月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.41倍:有効1.72倍「群馬労働局・7月」
- 大型小売店販売額 211億円(前年同月比+3.4%)「経済産業省・7月」
- 消費者物価指数(全国) 101.0(前年同月比+0.9%)「総務省統計局・7月」  
(鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)